

第2章 越谷市の現状と課題

1 統計から見た現状

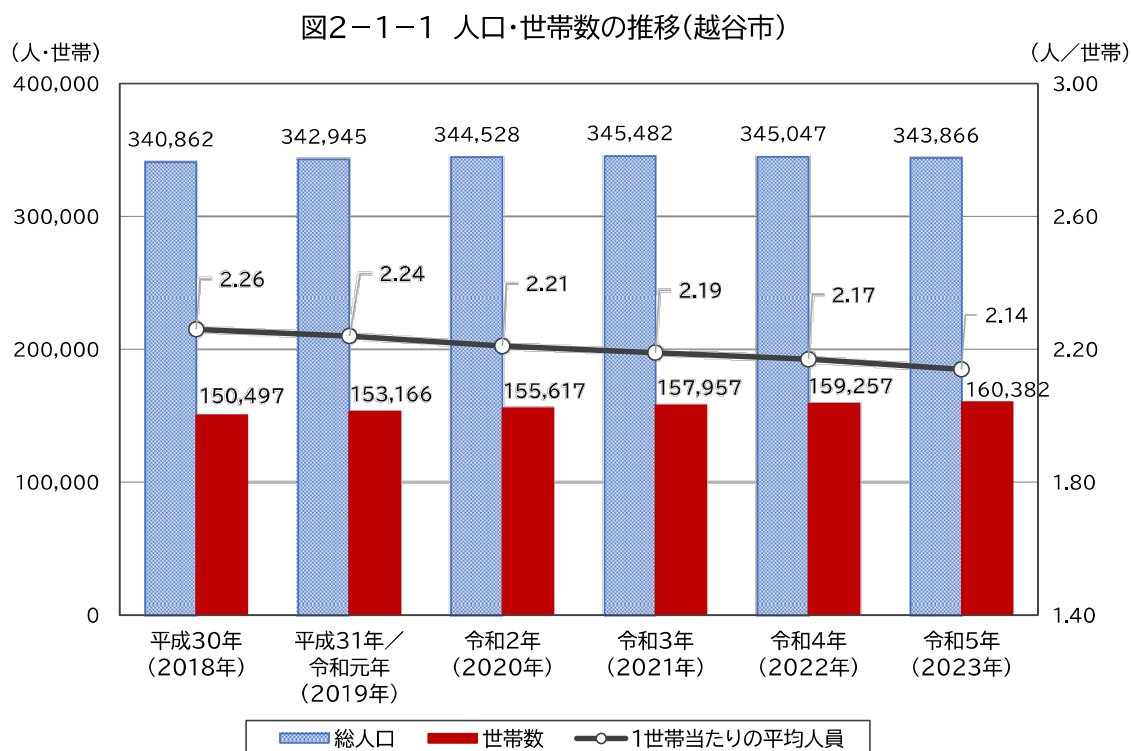
(1) 越谷市の人口動態

ア 人口推移

令和5年（2023年）1月1日現在の総人口は343,866人で、平成30年（2018年）1月1日現在の340,862人からは3,004人の増加となっていますが、令和3年（2021年）をピークに減少に転じ、令和5年（2023年）1月1日現在の345,482人から1,616人の減少となっています。

令和5年（2023年）1月1日現在の世帯数は160,382世帯で、平成30年（2018年）1月1日現在の150,497世帯から9,885世帯の増加となっています。

人口が減少に転じつつも、世帯数は一貫して増加しており、1世帯当たりの平均人員は令和5年（2023年）1月1日現在で2.14人で、平成30年（2018年）1月1日現在の2.26人から0.12人減少しています。



出典:埼玉県町(丁)字別人口調査(各年1月1日現在)

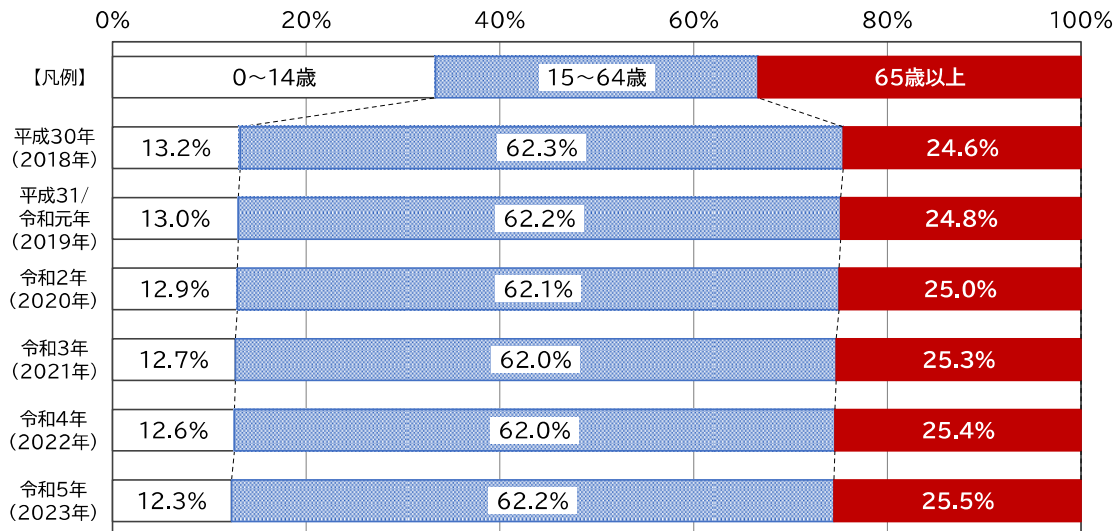
イ 年齢別人口構成

(ア) 年齢3区分別人口構成比の推移

本市の年齢3区分別人口構成比をみると、平成30年（2018年）と令和5年（2023年）の比較では、年少人口（0～14歳）の割合が低下し、高齢者人口

（65歳以上）の割合が上昇しています。高齢者人口は令和2年（2020年）に25%に達し、4人に1人が高齢者となり、少子高齢化の傾向が顕著になっています。

図2-1-2 年齢3区分別人口構成比(越谷市)

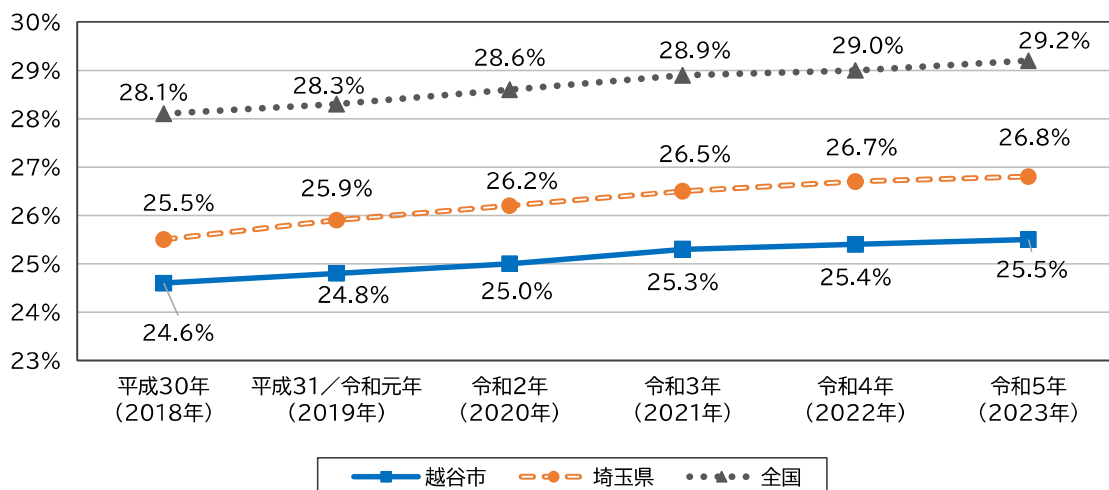


出典:埼玉県町(丁)字別人口調査(各年1月1日現在)

(イ) 高齢化率の推移

本市の高齢化率（高齢者人口の比率）は、令和5年（2023年）は国よりも3.7ポイント、埼玉県よりも1.3ポイント低く、また平成30年（2018年）よりも国、県との差が開いており、比較的高齢化の進行の遅い市といえます。

図2-1-3 高齢化率の推移



出典:越谷市・県は埼玉県町(丁)字別人口調査(各年1月1日現在)

国は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」(各年1月1日現在)

(ウ) 高齢化のスピード

国が高齢化社会（高齢化率7％）から、高齢社会（高齢化率14％）となるのに要した年数は24年、さらに超高齢社会（高齢化率21％）となるのに12年であったところを、埼玉県はそれぞれ18年、9年で到達しています。

本市ではさらに速く、それぞれ11年、7年という年数しかかかっておらず、国の36年に対し、本市はわずか18年で高齢化社会から超高齢社会に突入しています。

表2-1-1 高齢化のスピード

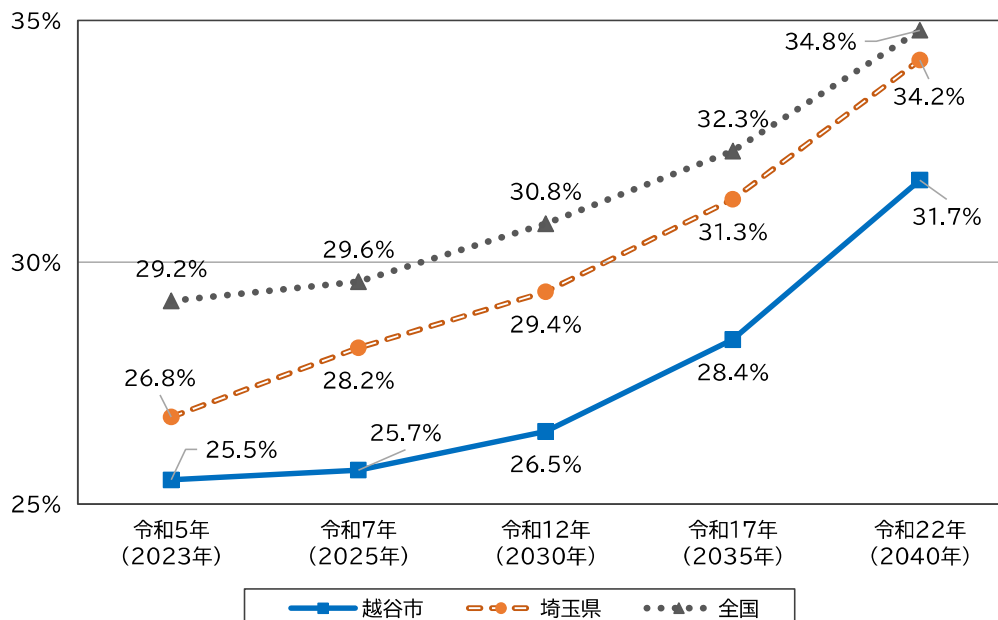
	高齢化社会 (7%)	移行期間	高齢社会 (14%)	移行期間	超高齢社会 (21%)
国	1970年 (昭和45年)	24年	1994年 (平成6年)	12年	2006年 (平成18年)
埼玉県	1985年 (昭和60年)	18年	2003年 (平成15年)	9年	2012年 (平成24年)
越谷市	1994年 (平成6年)	11年	2005年 (平成17年)	7年	2012年 (平成24年)

出典：越谷市は埼玉県町(丁)字別人口調査(各年1月1日現在)
国・県は国立社会保障・人口問題研究所

(エ) 将来の高齢化率

本市の高齢化率は、令和22年（2040年）には31.7％となり、令和5年（2023年）よりも6.2ポイント上昇すると予想されています。国や埼玉県の値よりも低いものの、急速な高齢化が見込まれます。

図2-1-4 将来の高齢化率の推移



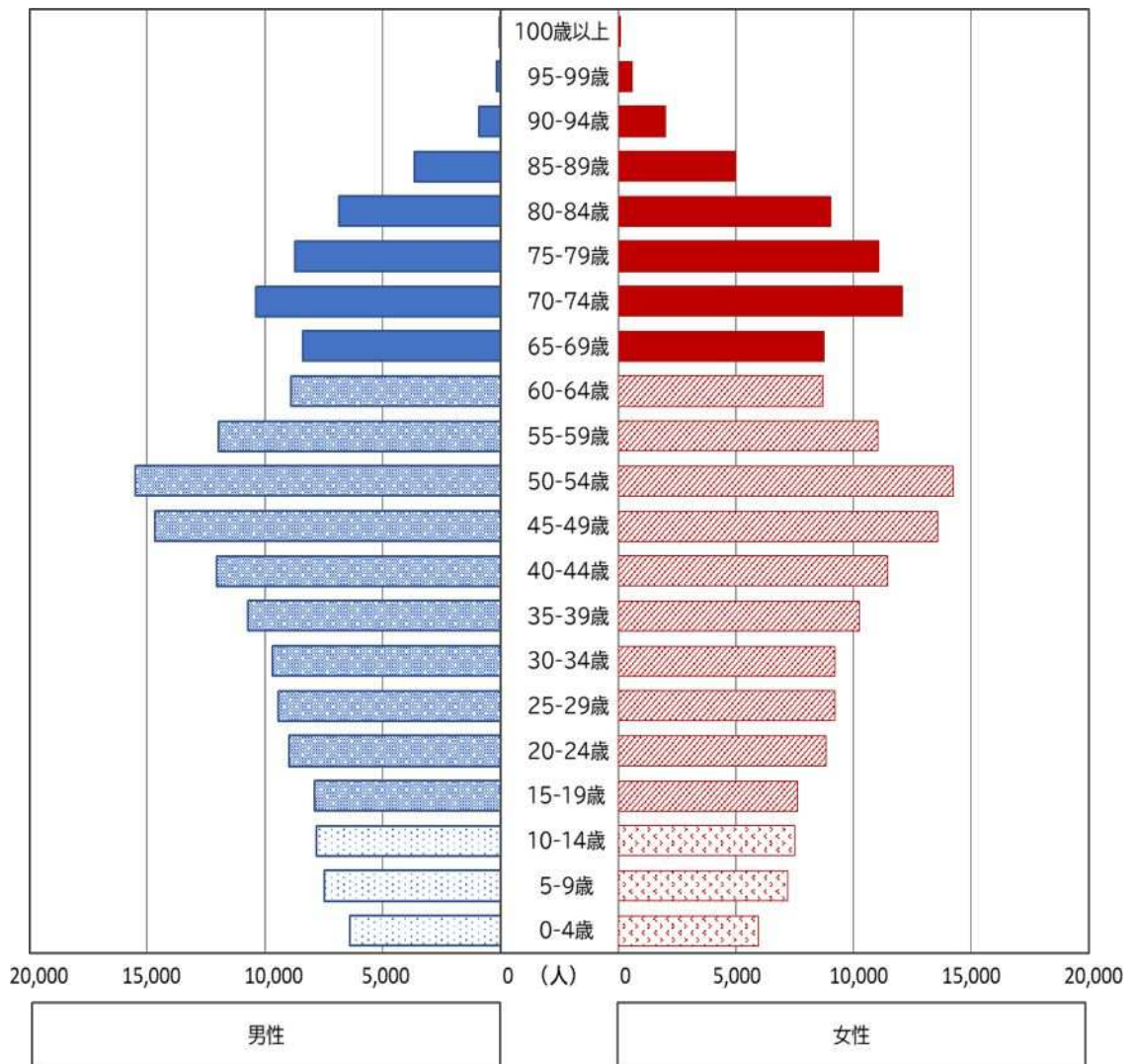
出典：越谷市は「第5次越谷市総合振興計画の策定における将来人口推計」
国は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」
県は同「日本の地域別将来推計人口」
越谷市・県の令和5年については埼玉県町(丁)字別人口調査(1月1日現在)による実績値

ウ 人口ピラミッド

本市の令和5年（2023年）1月1日時点の人口ピラミッドをみると、年少人口が少ない「ひょうたん型」となっており、人口移行過程では「成長期」を過ぎた「円熟期」に入っています。

加えて、昭和22～24年（1947～1949年）生まれの「団塊の世代」（戦後の第1次ベビーブーム世代）のほとんどが75歳以上となったことから、高齢者の健康維持・健康寿命の延伸が、今後の大きな課題となります。

図2-1-5 人口ピラミッド(越谷市)



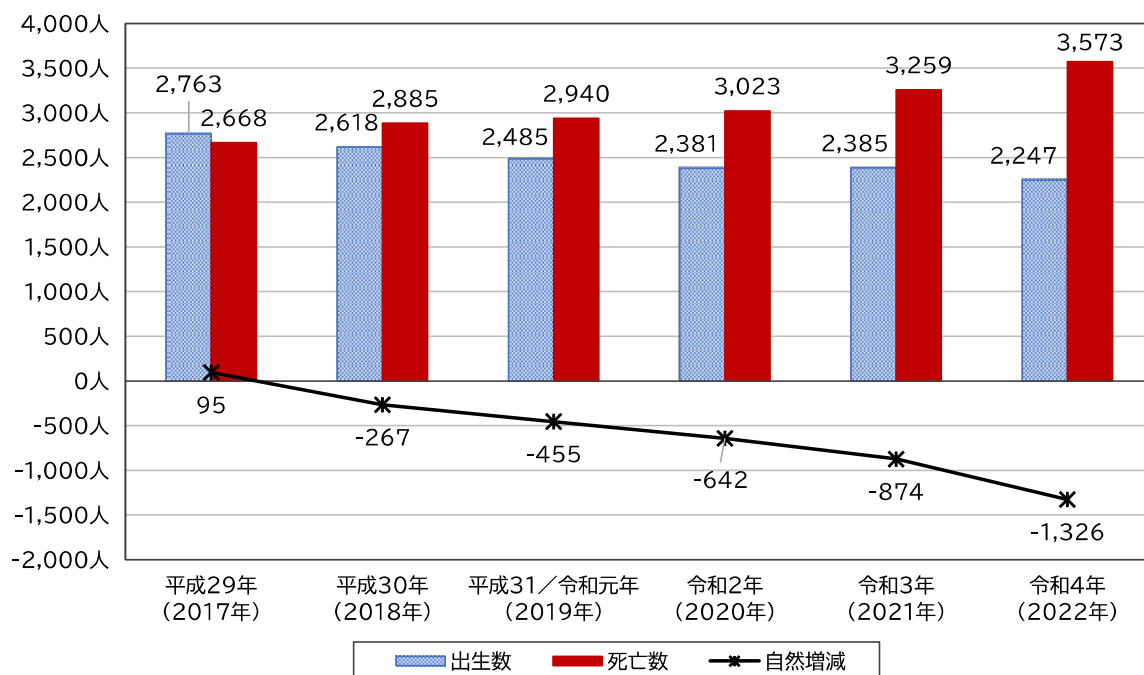
出典：越谷市住民基本台帳年齢階級別人口(令和5年1月1日現在)

工 自然動態

本市の出生数と死亡数の推移をみると、出生数は減少傾向、死亡数は増加傾向にあり、平成30年（2018年）以降、人口の自然減が進んでいます。

また、出生率は国や埼玉県より高くなっている一方、死亡率は低くなっています。

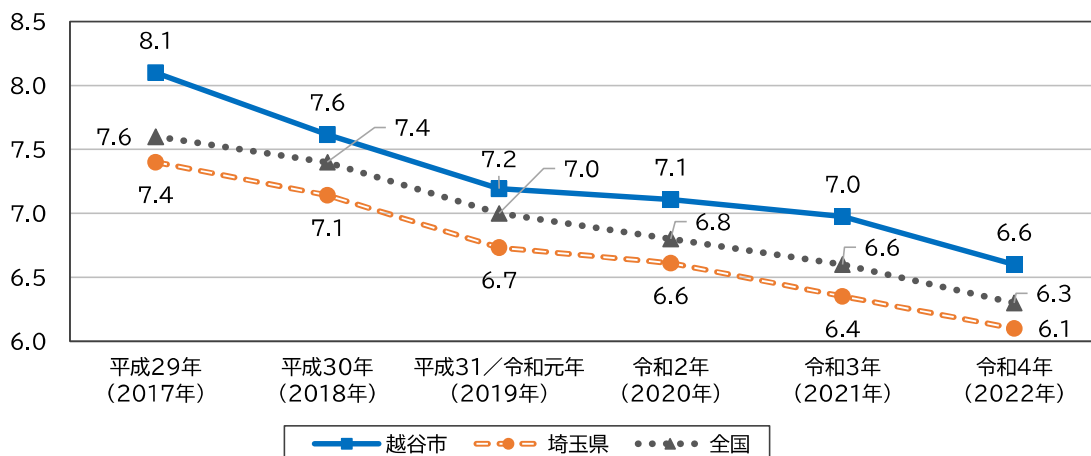
図2-1-6 自然動態推移(越谷市)



出典:埼玉県の人口動態概況(各年10月1日現在)

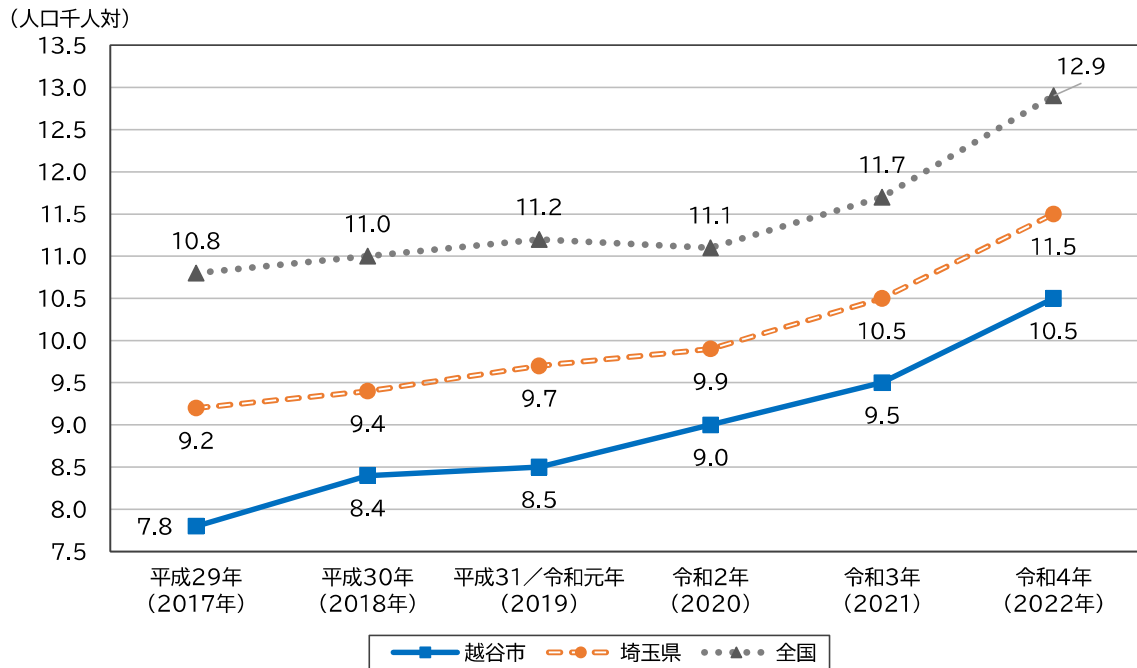
図2-1-7 出生率推移(出生率:1年間の出生数/10月1日の人口×1,000)

(人口千人対)



出典:埼玉県の人口動態概況(各年10月1日現在)

図2-1-8 死亡率推移(死亡率:1年間の死亡数/10月1日の人口×1,000)

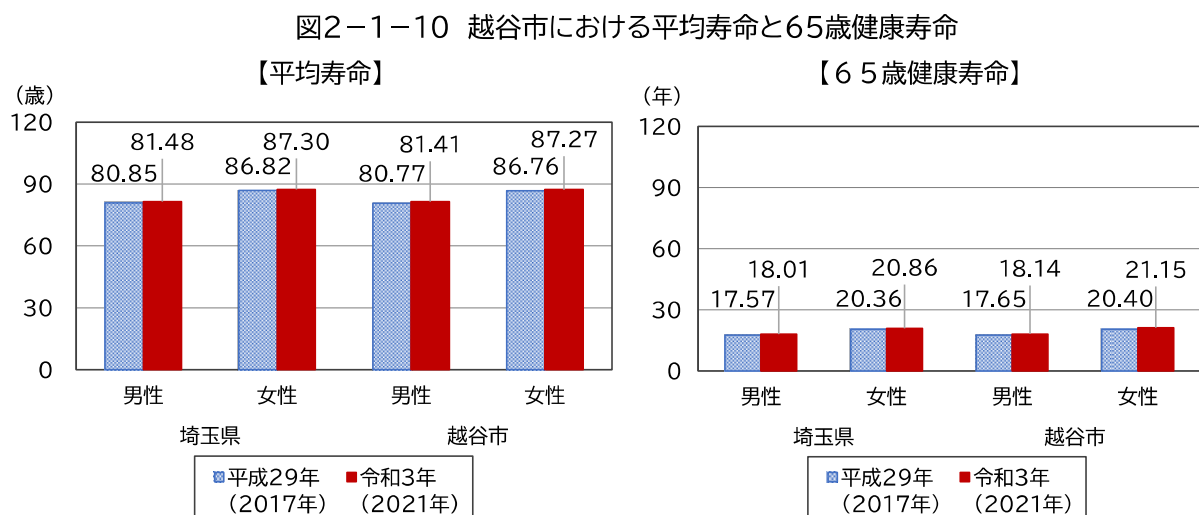
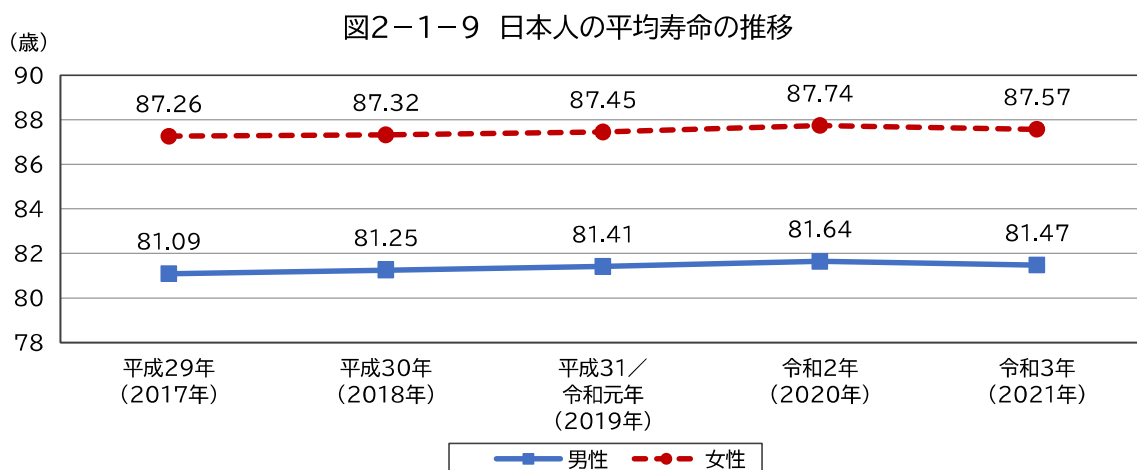


出典:埼玉県の人口動態概況(各年10月1日現在)

オ 平均寿命※・65歳健康寿命※

日本人の平均寿命の推移は横ばいとなっており、令和3年（2021年）には女性が87.57歳、男性が81.47歳となっています。

令和3年（2021年）の本市の平均寿命は女性が87.27歳、男性が81.41歳となっており、埼玉県の平均寿命とほぼ同水準となっています。また、65歳健康寿命は女性が21.15年、男性が18.14年で、男女ともわずかながら年々高くなっており、健康に生活できる期間が延びていることを示しています。



※ 平均寿命：

ある年の男女別にみた年齢別死亡率が将来もそのまま続くと仮定して、各年齢に達した人たちが、その後平均して何年生きられるかを示したものを平均余命といい、出生時、つまり0歳時の平均余命を特に平均寿命という。

※ 65歳健康寿命：

65歳の人健康で自立した生活を送ることができる期間。具体的には、65歳に達した人が要介護2以上になるまでの平均的な期間を算出したもの。

(2) 疾病等の状況

ア 死因順位別死亡数・死亡割合

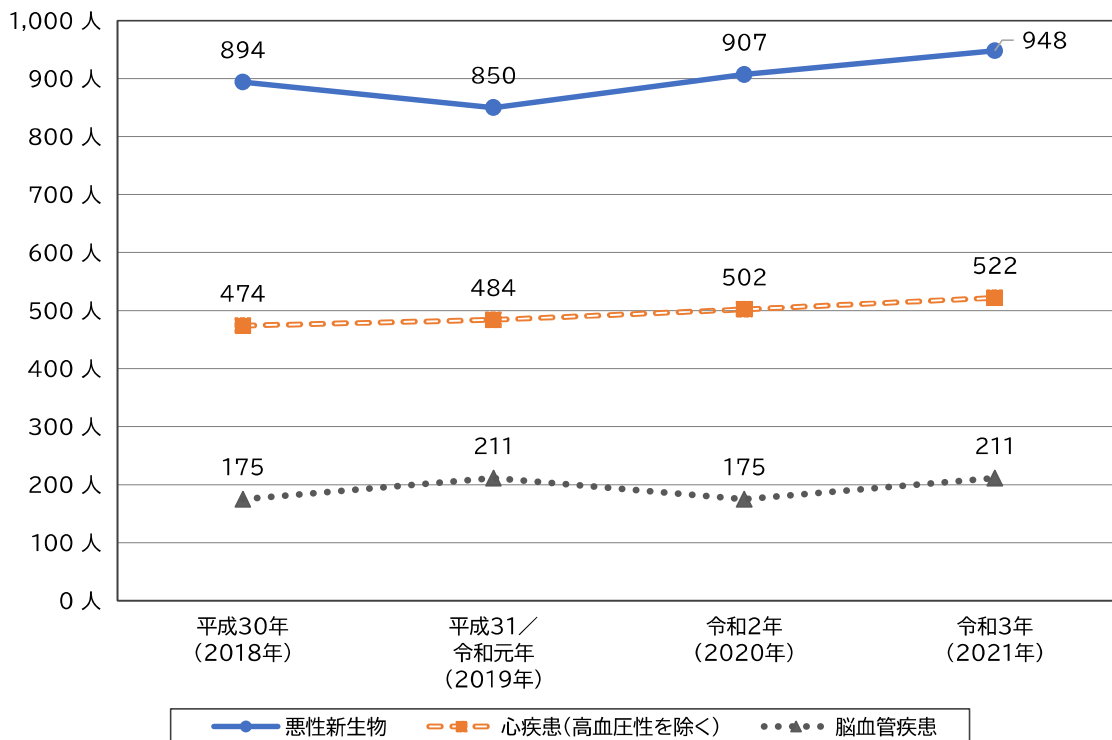
令和3年(2021年)の死因で最も多いのは埼玉県、本市ともに「悪性新生物」で、本市において死因の約3割を占めています。

表2-1-2 死因別死亡数・死亡割合(令和3年(2021年))

越谷市				埼玉県			
順位	死 因	死亡数 (人)	死亡割合 (%)	順位	死 因	死亡数 (人)	死亡割合 (%)
	総 数	3,259	100.0%		総 数	75,164	100.0%
1	悪性新生物	948	29.1%	1	悪性新生物	20,576	27.4%
2	心疾患(高血圧性を除く)	522	16.0%	2	心疾患(高血圧性を除く)	11,510	15.3%
3	老衰	259	7.9%	3	老衰	6,896	9.2%
4	脳血管疾患	211	6.5%	4	脳血管疾患	5,188	6.9%
5	肺炎	199	6.1%	5	肺炎	4,778	6.4%
6	誤嚥性肺炎	81	2.5%	6	誤嚥性肺炎	2,120	2.8%
7	腎不全	79	2.4%	7	不慮の事故	1,560	2.1%
8	自殺	54	1.7%	8	腎不全	1,476	2.0%
	その他	906	27.8%		その他	21,060	28.0%

出典:埼玉県保健医療部衛生研究所資料

図2-1-11 悪性新生物、心疾患、脳血管疾患の死亡数の推移(越谷市)



出典:埼玉県保健医療部衛生研究所資料

イ 年齢調整死亡率（人口10万人対※）の推移

本市の悪性新生物の年齢調整死亡率は、男性・女性ともに低下しています。埼玉県と比較すると女性は依然として高い一方、男性は初めて埼玉県より低くなりました。

心疾患の年齢調整死亡率は、埼玉県が男女とも減少傾向にある中で、本市は男性が横ばいとなっています。脳血管疾患の年齢調整死亡率は男女とも低下しており、埼玉県と比べても低くなっています。

図2-1-12 悪性新生物、心疾患、脳血管疾患の年齢調整死亡率の推移(越谷市)

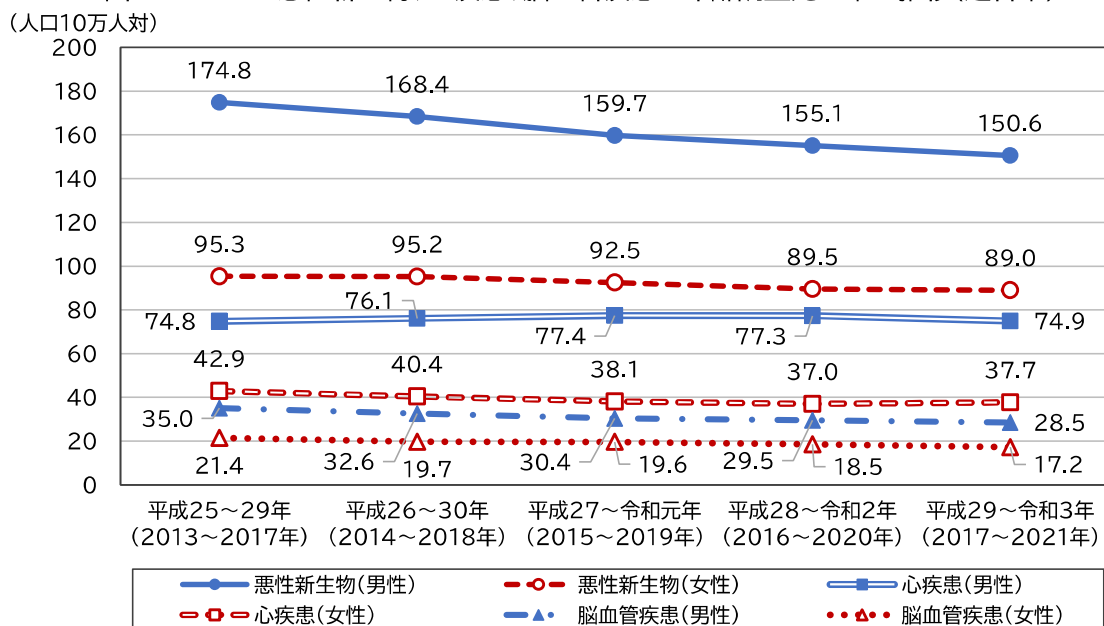
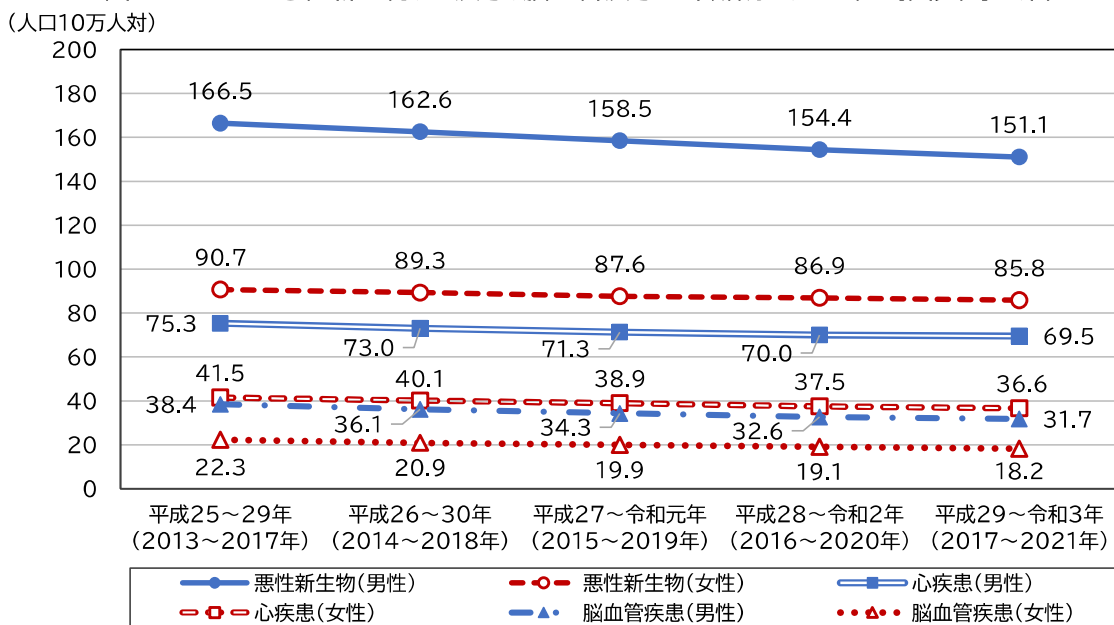


図2-1-13 悪性新生物、心疾患、脳血管疾患の年齢調整死亡率の推移(埼玉県)

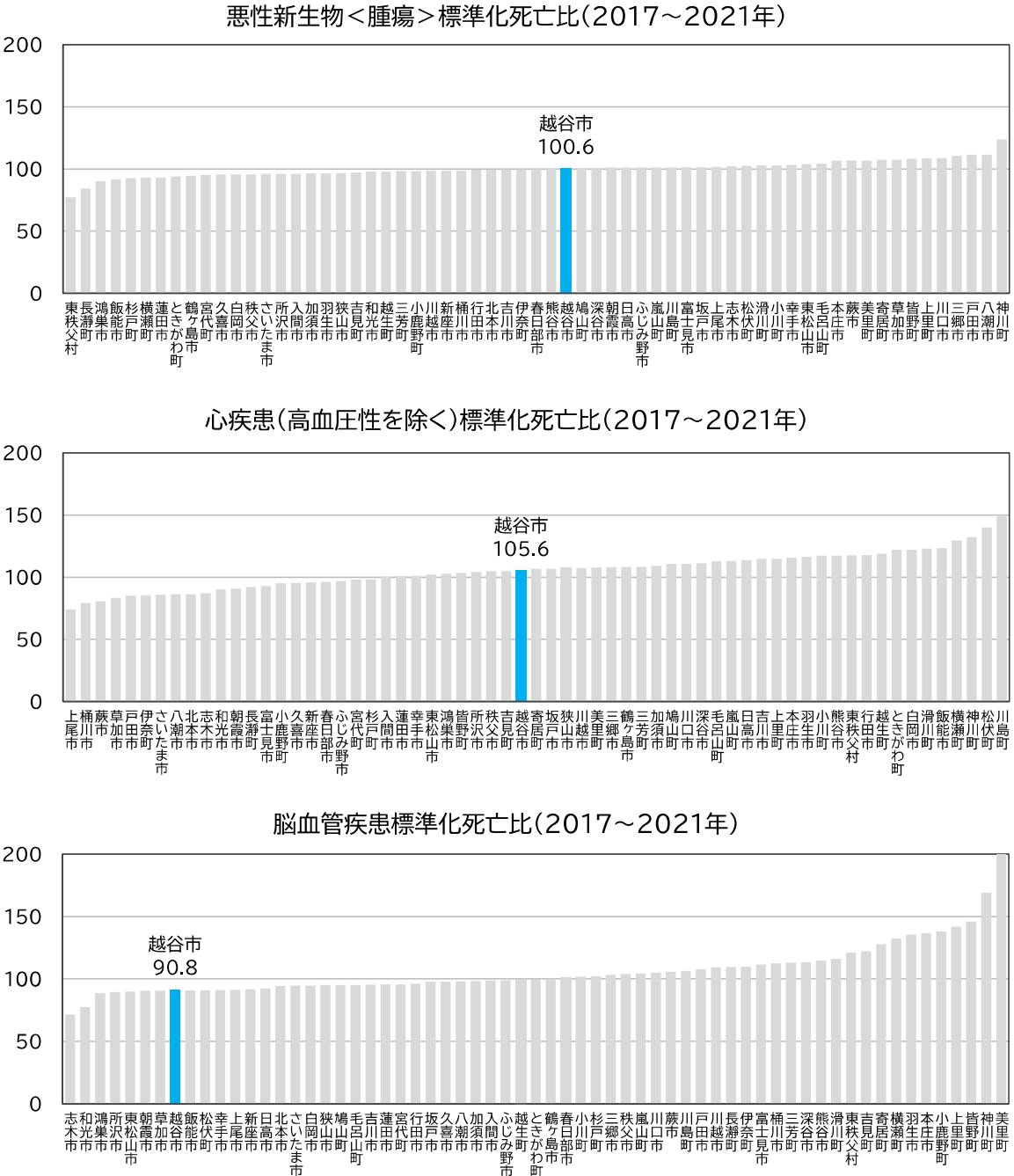


※ 人口10万人対： 人口10万人に対する1年間の死亡数。

ウ 標準化死亡比※

本市における標準化死亡比は、悪性新生物が100.6、心疾患が105.6と埼玉県を上回っていますが、脳血管疾患は90.8と埼玉県を下回っています。

図2-1-14 死因別の標準化死亡比(埼玉県を100とした時の値)(2017~2021年)

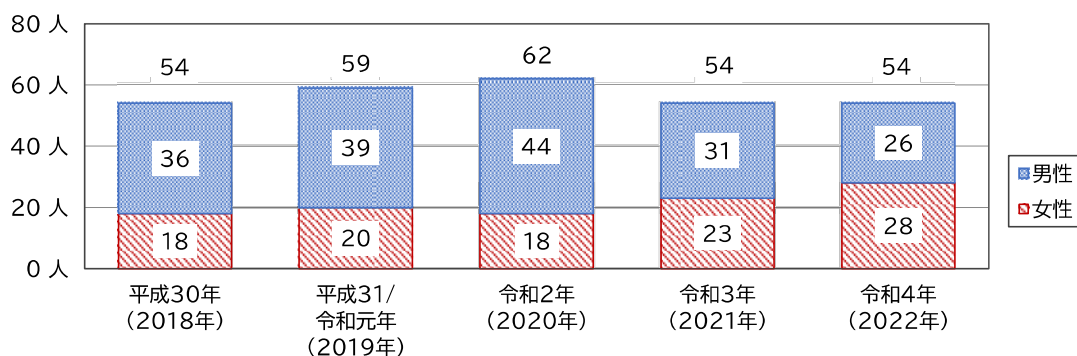


※ 標準化死亡比：地域間の死亡傾向を比較する指標で、基準とする地域と比較したい地域の年齢構成の違いを考慮して求めた死亡数の比較によって算出されたもの。

工 自殺の状況

本市の自殺者数は、おおむね50～60人台で推移しており、令和2年（2020年）の62人から令和4年（2022年）の54人と8人減少した一方で、女性は、令和2年（2020年）の18人から令和4年の28人と10人増加しています。また、平成29年（2017年）～令和3年（2021年）における本市の死因順位で、自殺は第7位（死亡割合1.9%）となっています。

図2-1-15 自殺者数(男女別)の推移(越谷市)



出典:厚生労働省「人口動態統計」

表2-1-3 ライフステージ別死因順位(越谷市・平成29年(2017年)～令和3年(2021年))

	幼年期 (0～4歳)	少年期 (5～14歳)	青年期 (15～24歳)	壮年期 (25～44歳)	中年期 (45～64歳)	高齢期 (65歳以上)	総数
第1位	先天奇形、変形 及び染色体異常 33.3%	悪性新生物 20.0%	自殺 55.2%	自殺 32.0%	悪性新生物 39.4%	悪性新生物 28.9%	悪性新生物 29.8%
第2位	周産期に 発生した病態 14.8%	その他の新生物 20.0%	不慮の事故 10.3%	悪性新生物 26.3%	心疾患 (高血圧性を除く) 15.7%	心疾患 (高血圧性を除く) 16.8%	心疾患 (高血圧性を除く) 16.5%
第3位	不慮の事故 7.4%	先天奇形、変形 及び染色体異常 20.0%	悪性新生物 8.6%	心疾患 (高血圧性を除く) 12.1%	脳血管疾患 7.2%	肺炎 8.5%	肺炎 7.6%
第4位	悪性新生物 3.7%	脳血管疾患 10.0%	心疾患 (高血圧性を除く) 3.4%	脳血管疾患 4.9%	自殺 6.9%	老衰 7.0%	脳血管疾患 6.5%
第5位	乳幼児 突然死症候群 3.7%	インフルエンザ 10.0%	その他の新生物 1.7%	不慮の事故 2.8%	肝疾患 3.9%	脳血管疾患 6.5%	老衰 6.2%
第6位			インフルエンザ 1.7%	肝疾患 2.0%	大動脈瘤及び 解離 2.3%	腎不全 2.2%	腎不全 2.0%
第7位			先天奇形、変形 及び染色体異常 1.7%	その他の新生物 1.6%	不慮の事故 1.5%	不慮の事故 1.9%	自殺 1.9%
第8位				糖尿病 1.2%	肺炎 1.3%	血管性及び詳細 不明の認知症 1.4%	不慮の事故 1.9%
	その他 37.0%	その他 20.0%	その他 17.2%	その他 17.0%	その他 21.9%	その他 26.7%	その他 27.5%

出典:埼玉県保健医療部衛生研究所

自殺死亡率は、人口10万人あたりの年間自殺者数の割合です。本市の死亡率は令和4年(2022年)に15.7となっており、国や埼玉県よりも低くなっていますが、男女別でみると女性が14.4となっており、国や埼玉県よりも高くなっています。

図2-1-16 自殺死亡率の推移

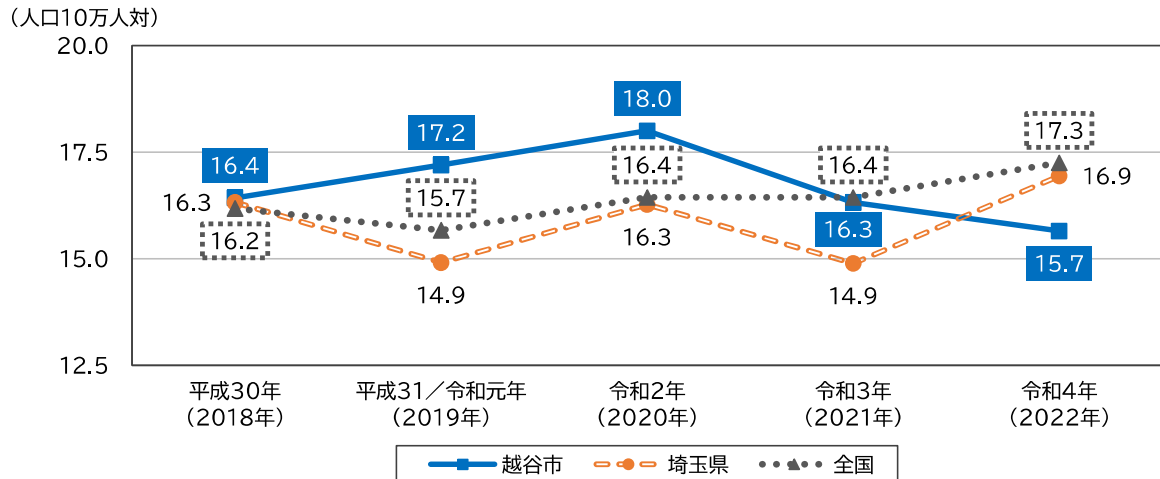
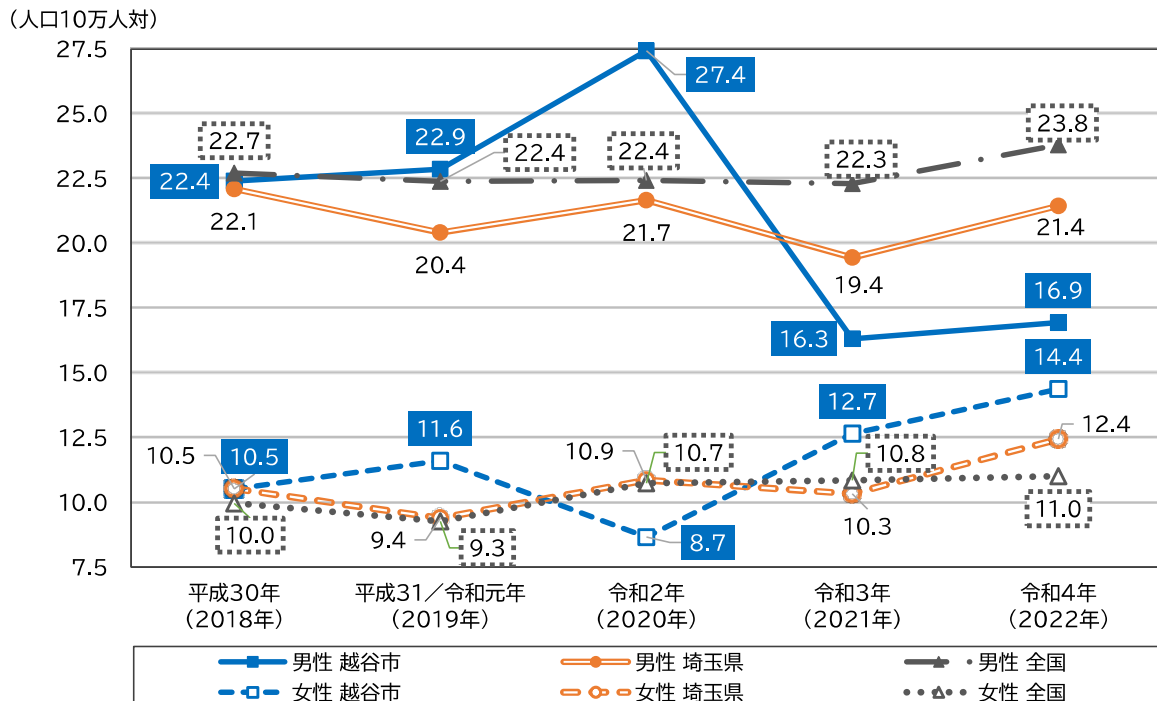


図2-1-17 自殺死亡率の推移(男女別)

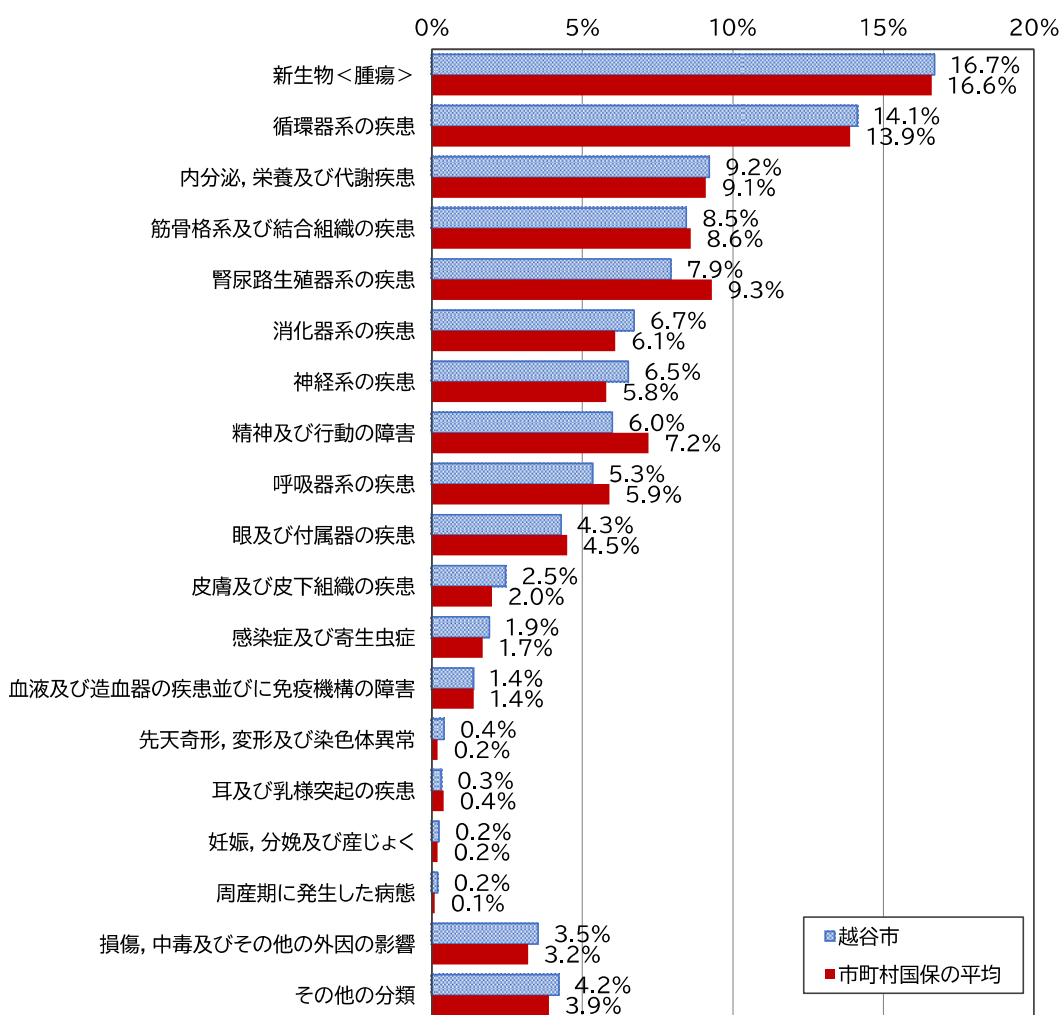


オ 医療費の状況

令和4年度（2022年度）の越谷市国民健康保険における疾病分類別医療費の状況（医療費の構成割合、入院＋入院外）をみると、「新生物＜腫瘍＞」が最も多く、総医療費の16.7%を占め、次いで「循環器系の疾患」が14.1%となっています。

県内市町村国保の平均と比較すると、「消化器系の疾患」「神経系の疾患」などは高くなっている一方、「腎尿路生殖器系の疾患」「精神及び行動の障害」などは低くなっています。

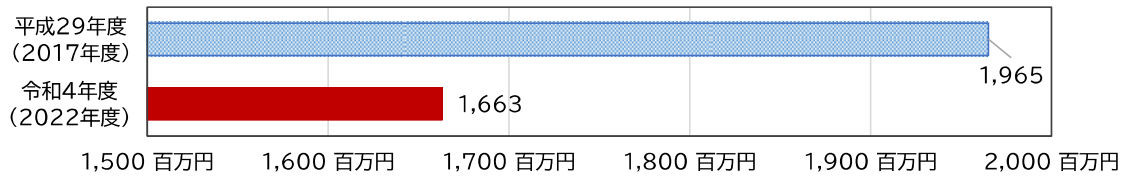
図2-1-18 越谷市国民健康保険における疾病分類別医療費の状況(医科、令和4年度)



出典：(越谷市)第3期越谷市国民健康保険データヘルス計画
(市町村国保の平均)埼玉県国民健康保険団体連合会

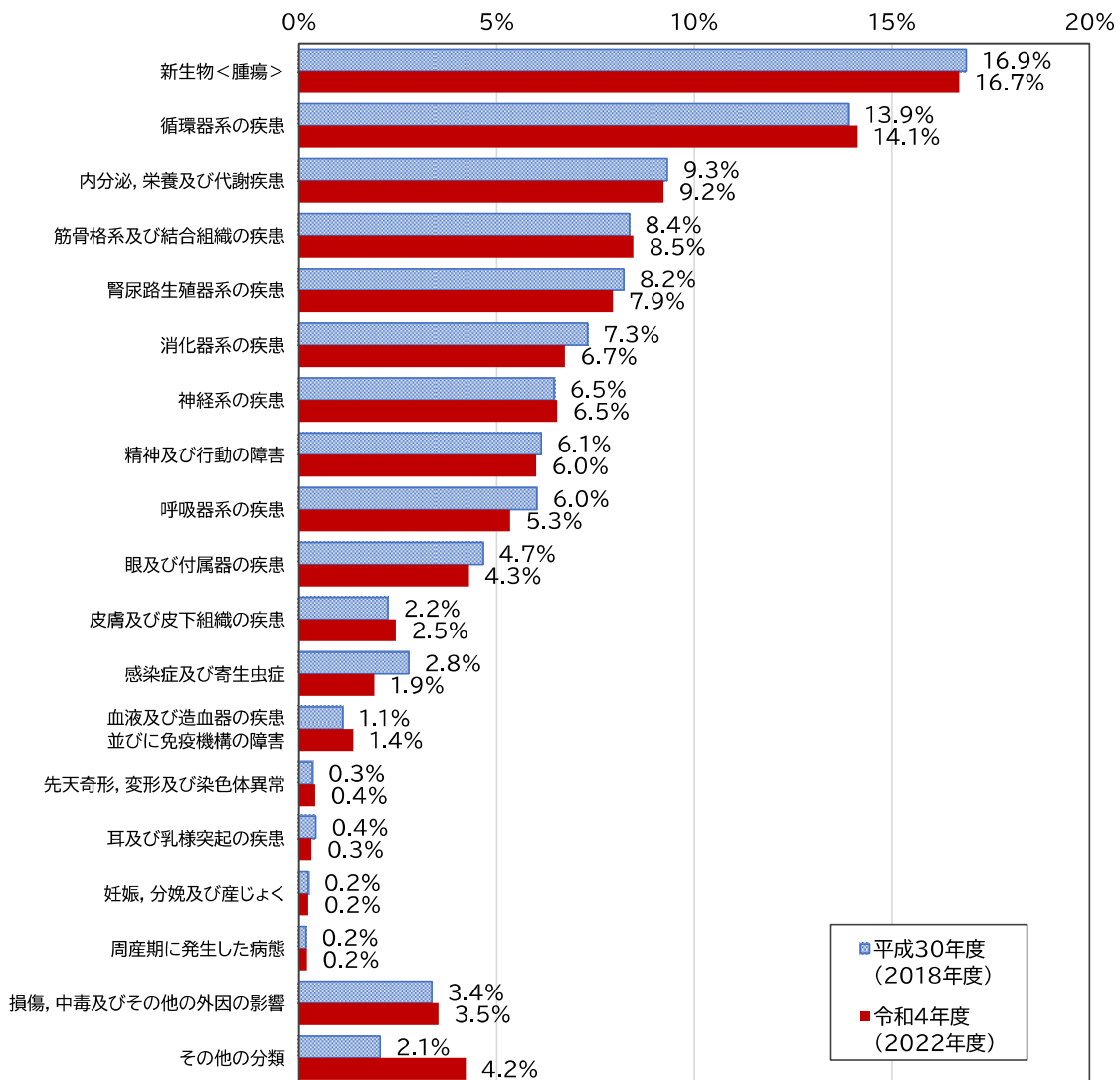
越谷市国民健康保険における歯科保健の医療費の状況は、平成29年度（2017年度）に約19億6500万円であったものが、令和4年度（2022年度）には、約16億6300万円と、約3億円の減少となっています。

図2-1-19 越谷市国民健康保険における疾病分類別医療費の状況(歯科)



出典：(平成29年度)平成29年3月診療分から平成30年2月診療分までの歯科レセプト
(令和4年度)埼玉県国民健康保険団体連合会

越谷市国民健康保険における疾病分類別医療費の状況（医療費の構成割合、入院＋入院外）を平成30年度（2018年度）と令和4年度（2022年度）で比較すると、「消化器系の疾患」「呼吸器系の疾患」などが低下傾向にある一方、「新生物＜腫瘍＞」「循環器の疾患」など多くの項目では、顕著な変化はみられません。

図2-1-20 越谷市国民健康保険における疾病分類別医療費の状況比較(医科)
(平成30年度(2018年度)と 令和4年度(2022年度))

出典：第3期越谷市国民健康保険データヘルス計画

カ 特定健康診査からみる市民の健康状況

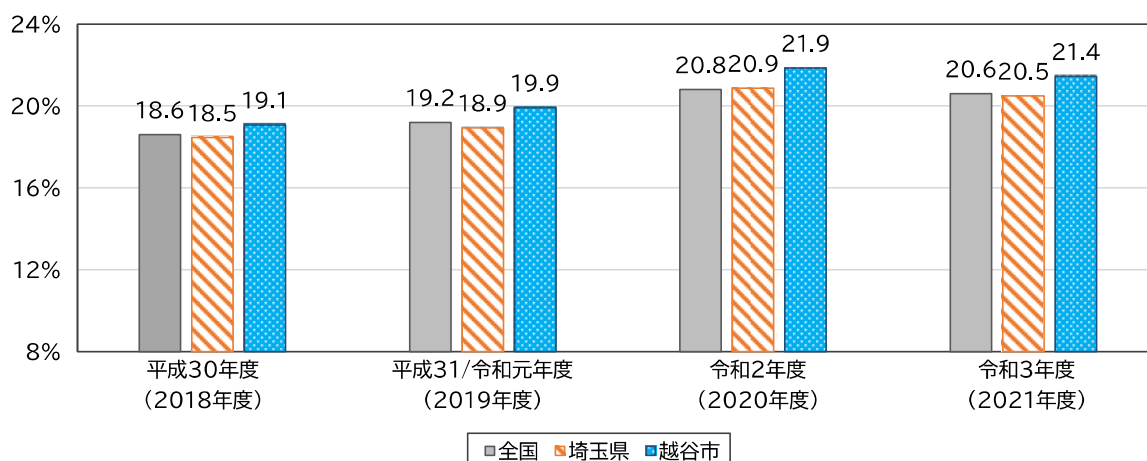
越谷市国民健康保険加入者の特定健康診査結果は次のとおりです。

(ア) 内臓脂肪症候群等の状況

本市の特定健康診査受診者数における内臓脂肪症候群（メタボリックシンドローム）の割合は、令和3年度（2021年度）では21.4%となっており、平成30年度（2018年度）の19.1%と比べて2.3ポイント増加し、埼玉県と比べて0.9ポイント高くなっています。

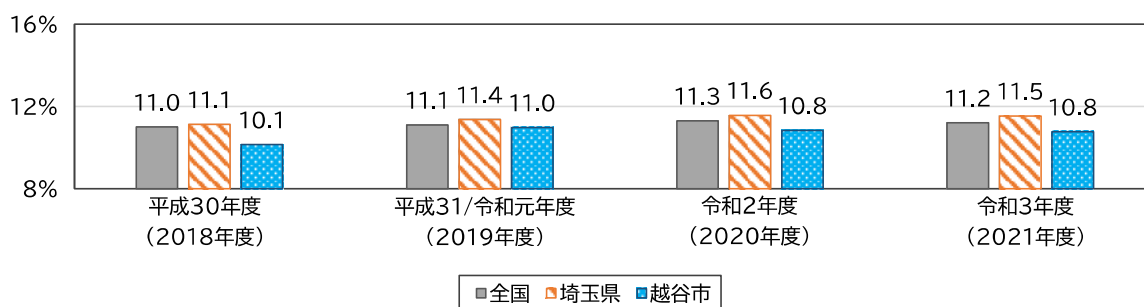
また、内臓脂肪症候群予備群の割合は、令和3年度（2021年度）では10.8%となっており、平成30年度（2018年度）の10.1%と比べて0.7ポイント増加しています。埼玉県の割合と比較すると、本市の割合は低い傾向が続いていますが、その差が平成30年度（2018年度）では1ポイントであったところ、令和3年度（2021年度）では0.7ポイントに縮小しています。

図2-1-21 内臓脂肪症候群該当者の状況



出典：(越谷市・県)法定報告
(国)国民健康保険中央会(特定健康診査特定保健指導の実施状況)

図2-1-22 内臓脂肪症候群予備群該当者の状況



出典：(越谷市・県)法定報告
(国)国民健康保険中央会(特定健康診査特定保健指導の実施状況)

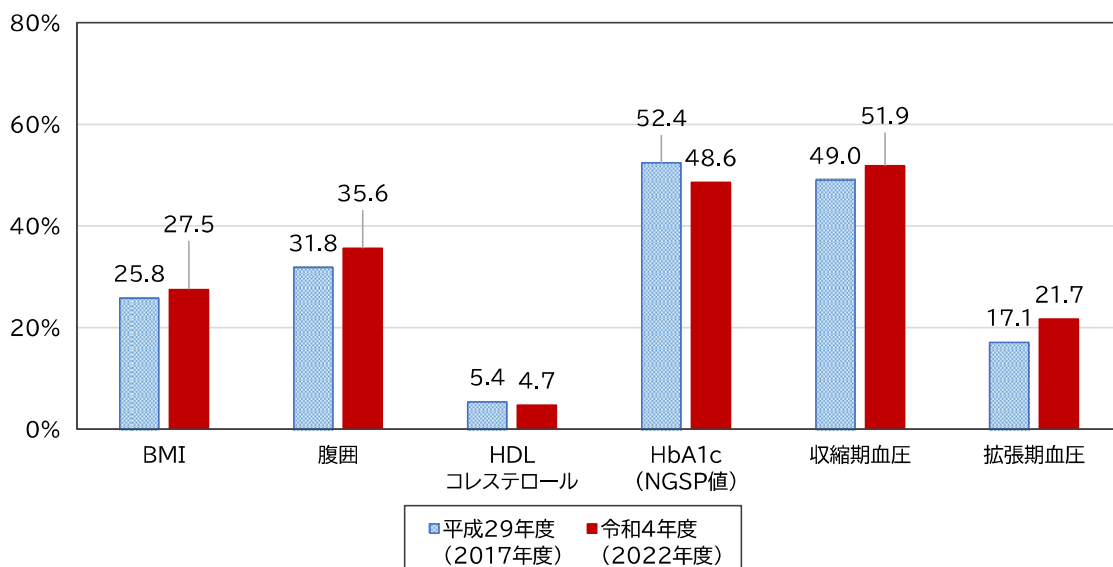
(イ) 生活習慣病（NCDs）発症のリスク保有状況

生活習慣病（NCDs）発症のリスクとして、肥満、脂質、血糖、血圧に関する項目を、国の定める保健指導判定基準をもとに判定しました。

それぞれの項目で基準を超えていると判定された人（リスクのある人）の割合は、平成29年度（2017年度）と比べて、HDLコレステロール、HbA1cは減少していますが、その他の項目は増加しています。

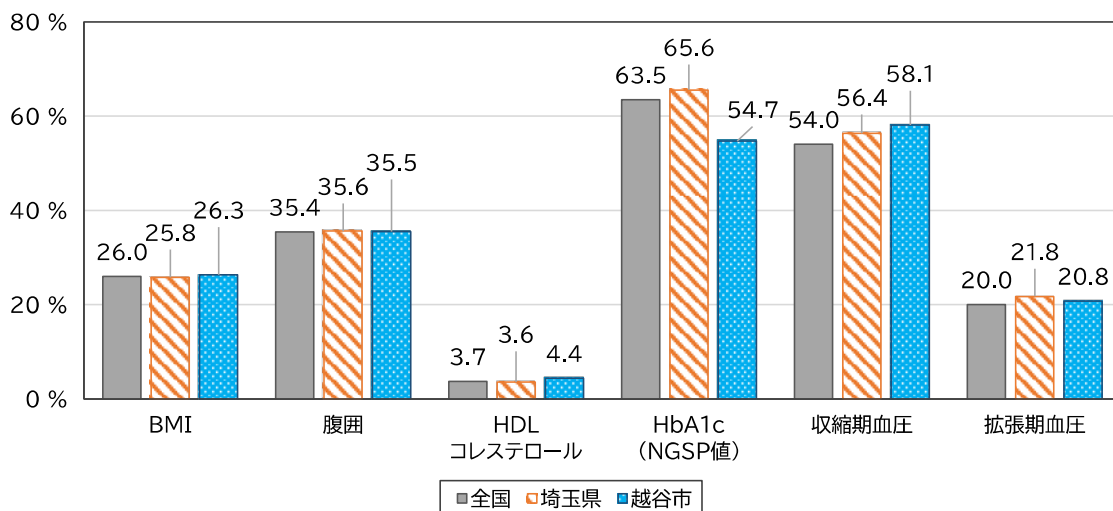
また、国や埼玉県と比較すると、HbA1cを除き、国や県よりもやや高い傾向にあります。

図2-1-23 生活習慣病(NCDs)発症のリスク保有状況の推移(越谷市)



出典:埼玉県国民健康保険団体連合会

図2-1-24 生活習慣病(NCDs)発症のリスク保有状況の比較(令和4年度(2022年度))



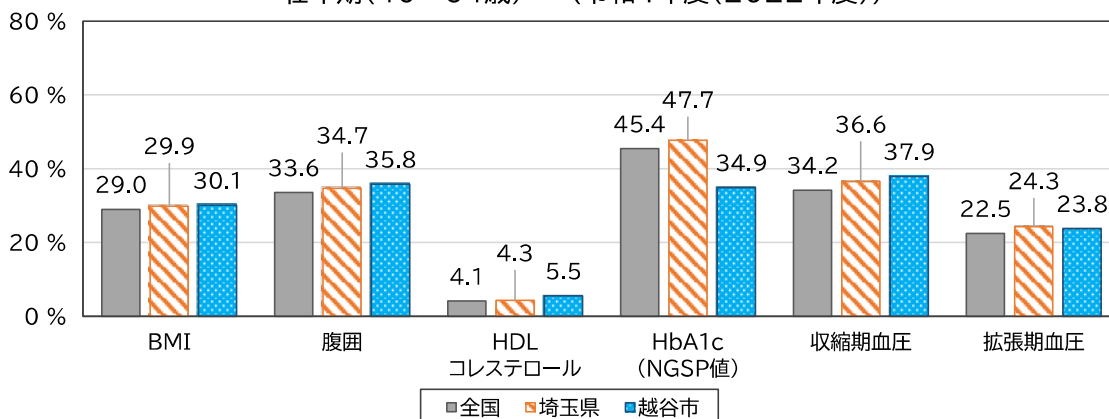
出典:(越谷市)埼玉県国民健康保険団体連合会
(国・県)埼玉県国民健康保険団体連合会(厚生労働省様式5-2)

(ウ) 年齢層別の状況

年齢層別に、それぞれの項目で基準を超えていると判定された人（リスクのある人）の割合を国や県と比較すると、壮年期（40歳～64歳）では、HbA1cを除き、国や県よりも高くなっています。

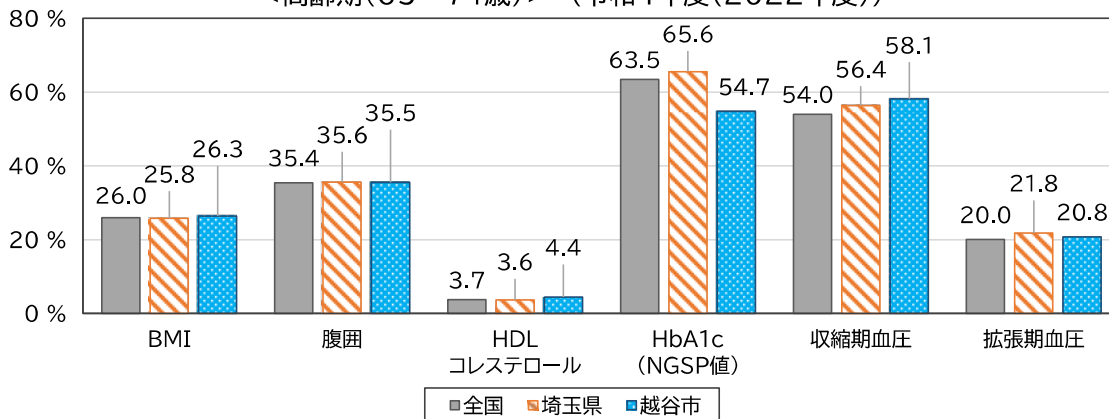
また、高齢期（65歳～74歳）においても、同様の傾向がみられます。

図2-1-25 年齢層別の生活習慣病(NCDs)発症リスク比較
＜壮年期(40～64歳)＞（令和4年度(2022年度)）



出典：(越谷市)埼玉県国民健康保険団体連合会
(国・県)埼玉県国民健康保険団体連合会(厚生労働省様式5-2)

図2-1-26 年齢層別の生活習慣病(NCDs)発症リスク比較
＜高齢期(65～74歳)＞（令和4年度(2022年度)）



出典：(越谷市)埼玉県国民健康保険団体連合会
(国・県)埼玉県国民健康保険団体連合会(厚生労働省様式5-2)

特定健康診査（特定健診）は、生活習慣病予防のために保健指導を必要とする人を選び出すための健診です。特定健診結果より、内臓脂肪蓄積の程度とリスク要因の数に着目し、リスクに応じて、特定保健指導の対象者は「情報提供」「動機付け支援」「積極的支援」に区分されます。（階層化）

保健指導判定基準

項目	肥満		脂質		血糖	血圧		喫煙歴
	腹囲	BMI	中性脂肪	HDL コレステロール	HbA1c (NGSP値)	収縮期血圧	拡張期血圧	
判定値	男性85cm以上 女性90cm以上	25以上	150mg/dl以上	39mg/dl以下	5.6%以上	130mmHg以上	85mmHg以上	有無

(工) 健診結果(質問票)の状況

生活習慣の状況を比較すると、「噛みにくいことがある」人の割合が19.7%から17.4%に2.3ポイント改善しています。「睡眠が十分とれている」人の割合は、72.7%から71.7%に1ポイント低下しています。

埼玉県との比較では、「たばこを習慣的に吸っている」は本市が13.5%で、埼玉県の14.7%と比べて1.2ポイント低く、「なんでも噛める」割合は本市が78.1%で、埼玉県の75.7%と比べて2.4ポイント高くなっています。

表2-1-4 健診結果(質問票)の状況(令和4年度(2022年度))

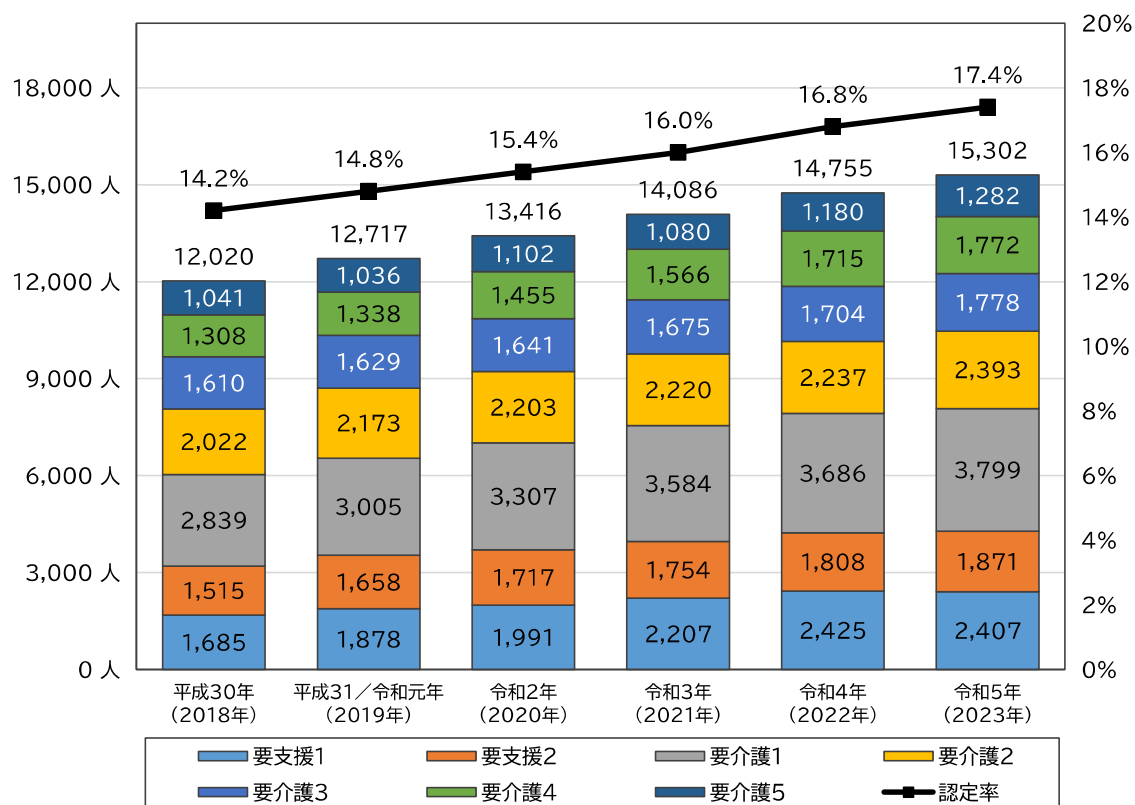
質問票の項目		越谷市 受診者に占める割合				埼玉県 受診者に占める割合			
		令和2年度 (A)	令和3年度	令和4年度 (B)	差 (B)-(A)	令和2年度 (A)	令和3年度	令和4年度 (B)	差 (B)-(A)
たばこ	たばこを習慣的に吸っている	13.0%	13.3%	13.5%	0.5%	14.4%	14.6%	14.7%	0.3%
運動習慣	1回30分以上の運動を週2回以上、1年以上実施	44.4%	43.8%	43.8%	▲ 0.6%	39.1%	38.9%	39.0%	▲ 0.1%
	日常生活において歩行又は同等の身体活動を1日1時間以上実施	50.7%	50.3%	51.3%	0.6%	48.4%	48.6%	48.7%	0.3%
咀嚼	なんでも噛める	76.3%	76.4%	78.1%	1.7%	75.8%	75.6%	75.7%	▲ 0.1%
	噛みにくいことがある	19.7%	19.2%	17.4%	▲ 2.3%	17.1%	17.4%	17.2%	0.1%
	ほとんど噛めない	0.8%	0.7%	0.9%	0.2%	0.8%	0.8%	0.8%	0.0%
食事	食べ方	食べる速度が速い	23.4%	22.3%	▲ 0.5%	23.5%	23.6%	23.3%	▲ 0.3%
		食べる速度が普通	66.5%	66.9%	0.1%	61.4%	62.0%	62.2%	0.8%
		食べる速度が遅い	7.0%	7.2%	0.0%	6.8%	6.9%	7.0%	0.1%
	食習慣	週3回以上就寝前に夕食を摂る	15.6%	15.1%	▲ 0.2%	15.7%	15.5%	15.5%	▲ 0.2%
		毎日朝昼夕食以外に間食を摂る	17.5%	18.1%	0.5%	16.9%	17.6%	17.9%	1.1%
		週3回以上朝食を抜く	9.6%	10.3%	1.6%	8.7%	9.6%	10.0%	1.2%
飲酒	習慣	お酒を毎日飲む	24.5%	24.0%	▲ 0.5%	24.2%	23.8%	23.7%	▲ 0.5%
		お酒を時々飲む	19.2%	19.2%	0.9%	20.6%	20.6%	21.0%	0.4%
		お酒をほとんど飲まない	53.1%	53.3%	▲ 0.8%	48.6%	49.1%	48.7%	0.1%
	1回の量	1合未満	67.9%	68.1%	0.2%	53.3%	53.3%	53.0%	▲ 0.3%
		1～2合未満	12.8%	12.3%	0.2%	16.3%	16.1%	16.1%	▲ 0.2%
		2～3合未満	8.8%	8.7%	▲ 0.3%	6.8%	6.7%	7.0%	0.2%
		3合以上	1.9%	1.7%	▲ 0.2%	1.7%	1.7%	1.9%	0.1%
休養	睡眠が十分とれている	72.7%	72.3%	71.7%	▲ 1.0%	69.4%	69.6%	68.5%	▲ 0.9%
改善意欲	運動や食生活等の生活習慣を改善してみようと思う	改善するつもりはない	17.2%	17.6%	0.2%	27.7%	27.4%	27.4%	▲ 0.2%
		改善するつもりである	13.7%	13.5%	▲ 1.5%	22.5%	22.7%	22.4%	▲ 0.1%
		近いうちに改善するつもりであり、少しずつ始めている	46.7%	46.3%	0.6%	16.5%	16.5%	16.5%	0.0%
		既に改善に取り組んでいる(6ヶ月未満)	2.6%	2.9%	▲ 0.2%	7.6%	7.8%	7.7%	0.1%
		既に改善に取り組んでいる(6ヶ月以上)	16.5%	16.0%	0.4%	17.5%	17.9%	18.1%	0.6%

出典：特定健康診査等データ管理システム（法定報告）

(3) 要介護等認定者の状況

本市の要介護等認定者は、令和5年（2023年）は15,302人で、平成30年（2018年）から3,282人増えています。認定率※も14.2%から17.4%に上昇しています。

図2-1-27 要介護等認定者・認定率の推移(越谷市)



出典：第9期越谷市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画
(各年9月30日時点)

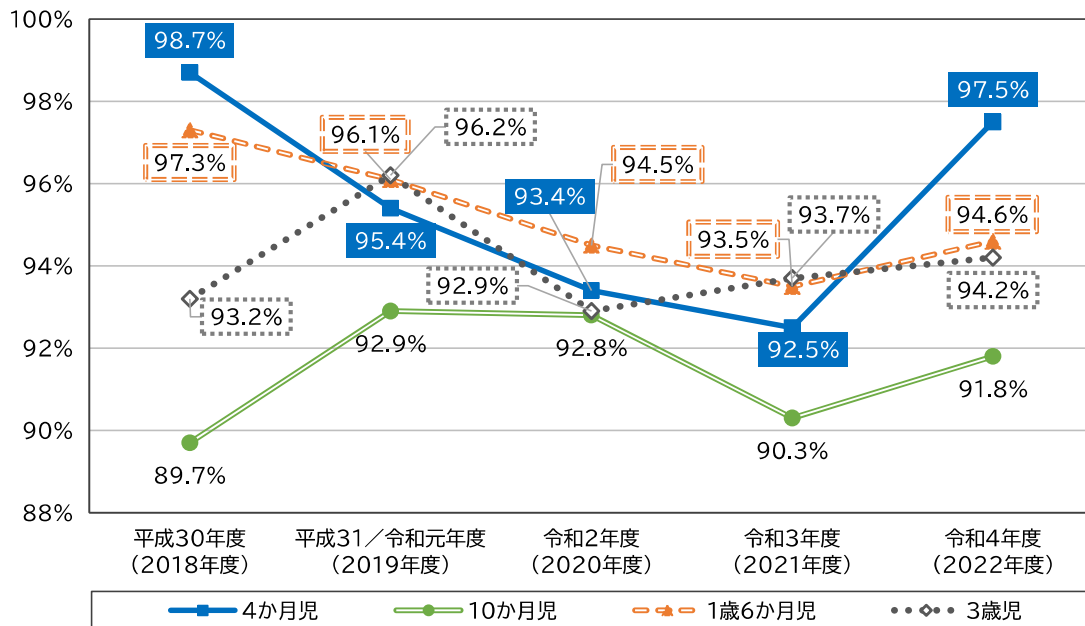
※ 認定率： 65歳以上の人口に占める要介護・要支援の認定を受けている人の割合。

(4) 健康診査

ア 乳幼児健康診査受診率

乳幼児健診の受診率は、年度によって変動はあるものの、平成30年度（2018年度）の10か月児健診を除き、いずれの受診率も90%以上で推移しています。

図2-1-28 乳幼児健康診査受診率の推移(越谷市)

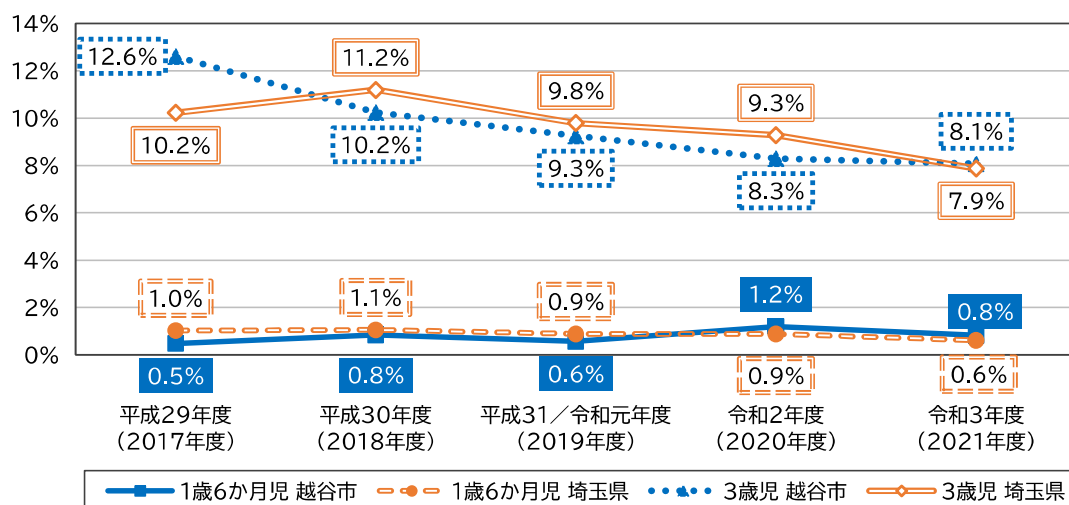


出典:越谷市健康づくり推進課

イ う歯(むし歯)有病率の推移

本市におけるう歯(むし歯)のある乳幼児の割合は、3歳児では減少傾向にありますが、1歳6か月児は埼玉県と同様、横ばいの状況です。

図2-1-29 う歯(むし歯)のある乳幼児の推移(越谷市・埼玉県)



出典:厚生労働省「地域保健・健康増進事業報告」

ウ 健康診査・検診等※受診率

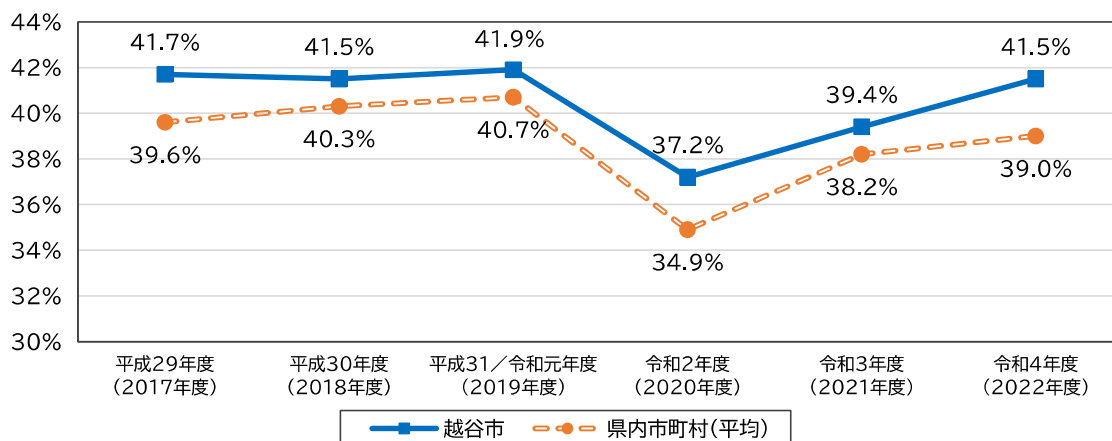
(ア) 特定健康診査及び後期高齢者健康診査の受診率の推移

本市の特定健康診査の受診率は41%台で推移していましたが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、令和2年度（2020年度）から令和3年度（2021年度）にかけて受診率は落ち込みました。令和4年度（2022年度）には以前の水準に回復しています。

後期高齢者健康診査においても、平成31年度（2019年度）まで上昇傾向にあったものが、令和2年度（2020年度）から令和3年度（2021年度）にかけて受診率は落ち込みました。その後、令和4年度（2022年度）は、平成31年度（2019年度）までよりも高い受診率になっています。

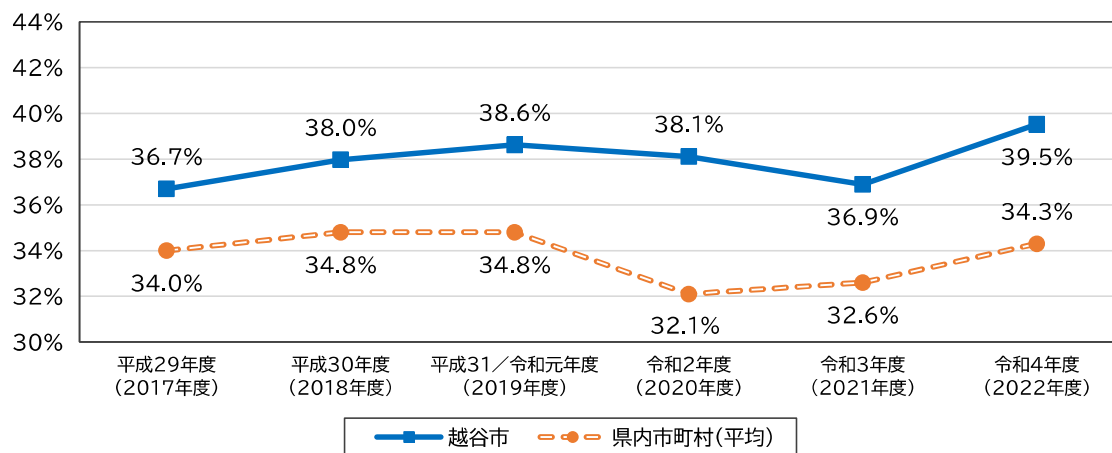
埼玉県の受診率と比較すると、特定健康診査及び後期高齢者健康診査とも、高い値で推移しています。

図2-1-30 特定健康診査受診率の推移



出典:第3期越谷市国民健康保険データヘルス計画

図2-1-31 後期高齢者健康診査受診率の推移



出典:第3期越谷市国民健康保険データヘルス計画

※ 健康診査とは特定健康診査等の健康診断を指し、検診とはがん検診等特定の病気を見つけるための検査を指します。

(イ) 越谷市のがん検診

本市では、胃がん検診、肺がん検診、大腸がん検診は40歳以上、子宮頸がん検診は20歳以上、乳がん検診は35歳以上を対象に実施しています。

胃がん検診、肺がん検診、大腸がん検診の受診者数は、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、令和2年度（2020年度）においては減少しましたが、令和4年度（2022年度）は上昇しています。また、乳がん検診の受診者数は、令和2年度（2020年度）に新型コロナウイルス感染症の流行に伴い集団検診を中止し、大きく減少しました。令和3年度（2021年度）以降は令和2年度（2020年度）と比べて増加していますが、平成31年度（2019年度）以前の水準までは回復していません。

表2-1-5 がん検診受診者数の推移

(単位:人)

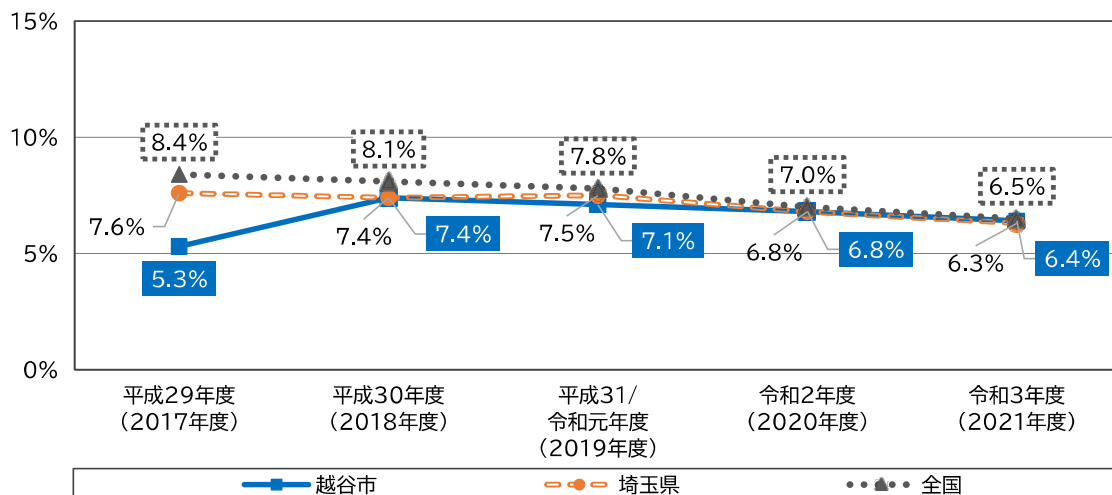
検診の種類	平成30年度 (2018年度)	平成31/令和元年度 (2019年度)	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)
胃がん	13,803	13,454	12,067	12,276	12,780
肺がん	23,968	24,509	23,923	22,973	25,364
大腸がん	20,894	20,540	19,536	20,206	20,464
子宮頸がん	9,760	10,217	10,439	10,761	9,772
乳がん	7,909	8,263	4,984	6,840	6,152

出典:越谷市健康づくり推進課

(ウ) がん検診受診率の推移

本市の胃がん検診受診率は、平成29年度（2017年度）は5.3%でしたが、令和3年度（2021年度）には6.4%に上昇しています。国や埼玉県が低下傾向にあることから、受診率の差がほとんどなくなっています。

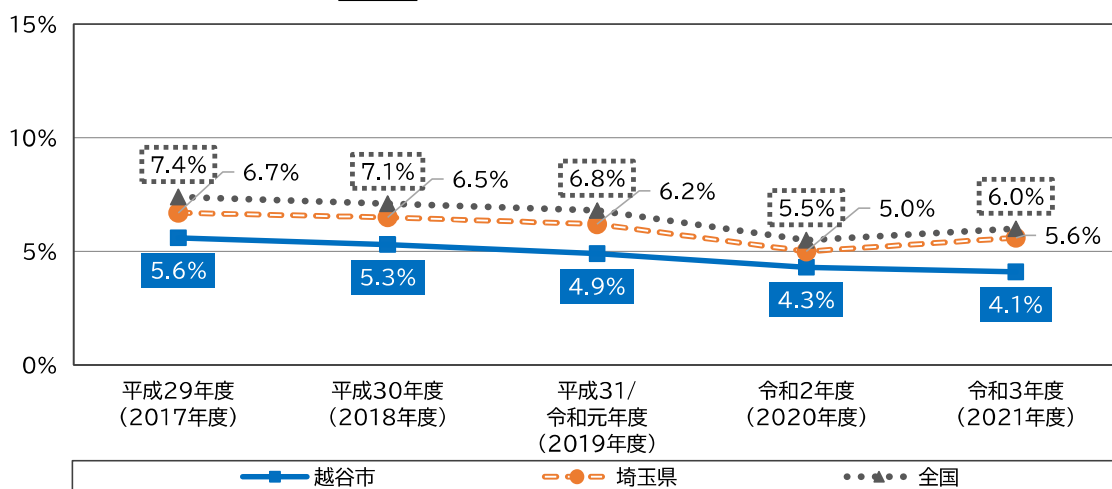
図2-1-32 胃がん検診受診率の推移(算定対象年齢は50～69歳)



出典：厚生労働省「地域保健・健康増進事業報告」

本市の肺がん検診受診率は、平成29年度（2017年度）は5.6%でしたが、令和3年度（2021年度）には4.1%に低下しています。国や埼玉県は令和2年度（2020年度）を底に令和3年度（2021年度）にはある程度回復した一方、本市の受診率はさらに低下し、国・埼玉県との受診率の差は、平成29年度（2017年度）よりも拡大しています。

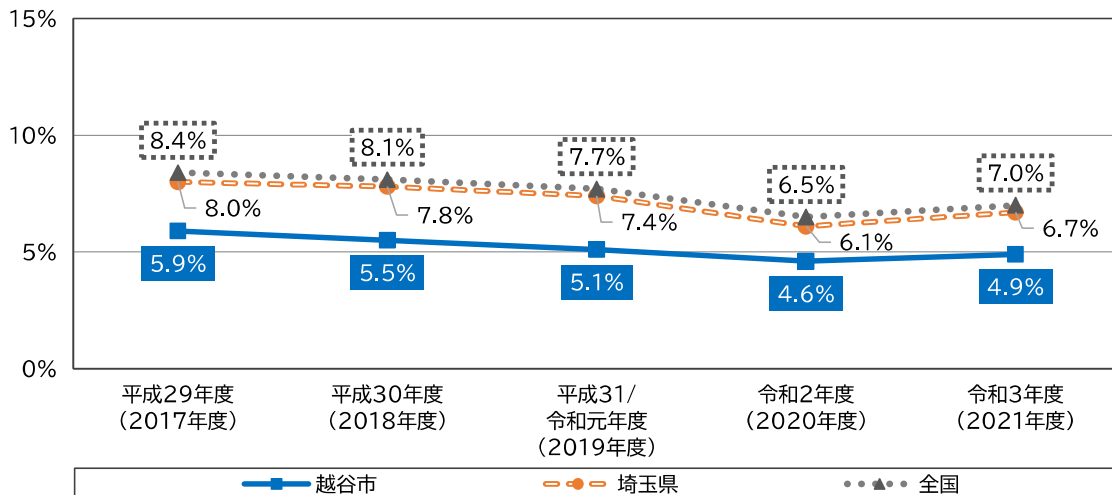
図2-1-33 肺がん検診受診率の推移(算定対象年齢は40～69歳)



出典：厚生労働省「地域保健・健康増進事業報告」

本市の大腸がん検診受診率は、平成29年度（2017年度）は5.9%でしたが、令和3年度（2021年度）には4.9%に低下しています。国や埼玉県よりも依然として低い状況が続いていますが、受診率の差は平成29年度（2017年度）よりも縮小されています。

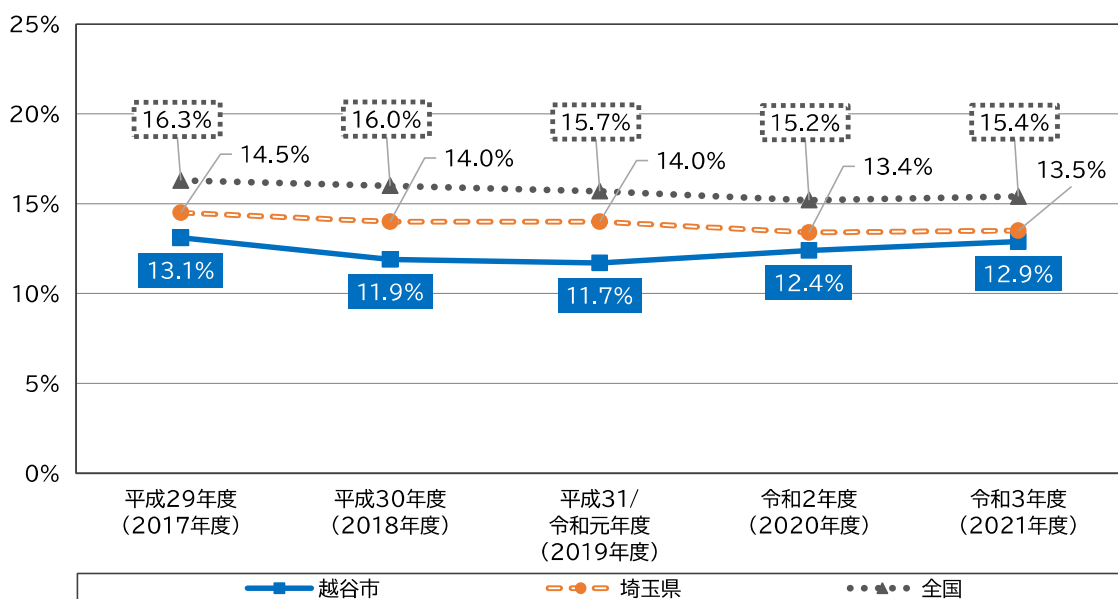
図2-1-34 大腸がん検診受診率の推移(算定対象年齢は40～69歳)



出典：厚生労働省「地域保健・健康増進事業報告」

本市の子宮頸がん検診受診率は、平成29年度（2017年度）は13.1%でしたが、平成31年度（2019年度）にかけて低下した後は上昇に転じ、令和3年度（2021年度）には12.9%となっています。国や埼玉県よりも依然として低い状況が続いていますが、受診率の差は縮小されています。

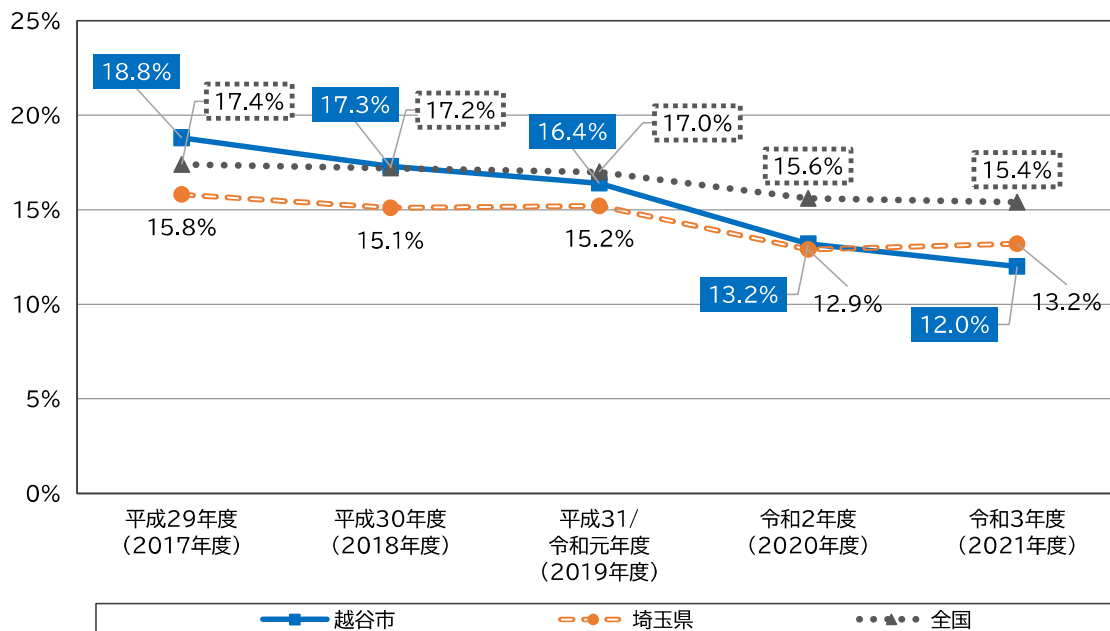
図2-1-35 子宮頸がん検診受診率の推移(算定対象年齢は20～69歳)



出典：厚生労働省「地域保健・健康増進事業報告」

本市の乳がん検診受診率は、平成29年度(2017年度)は18.8%でしたが、令和3年度(2021年度)には12.0%に低下しています。この5年度間の受診率の低下は国や埼玉県よりも大きく、それぞれの受診率を下回っています。

図2-1-36 乳がん検診受診率の推移(算定対象年齢は40～69歳)



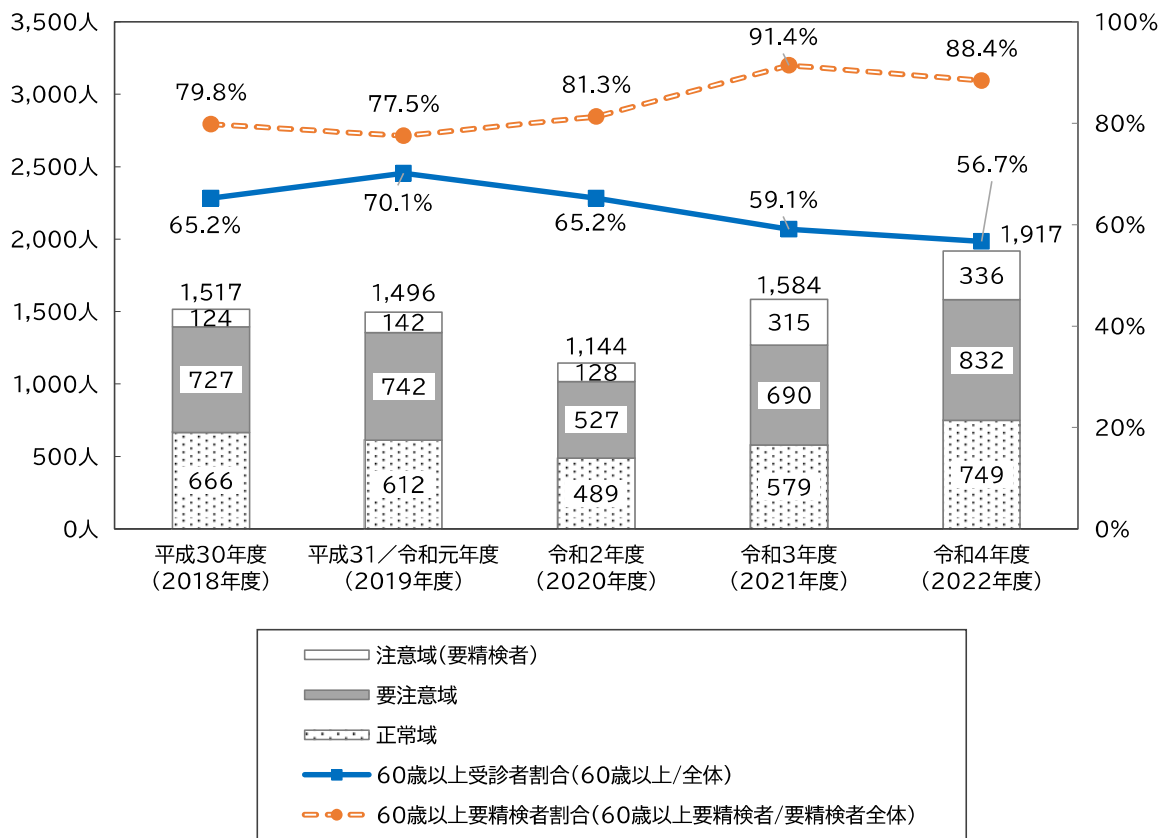
出典：厚生労働省「地域保健・健康増進事業報告」

(工) 骨粗しょう症検診

骨量は、20歳代までは増加し、その後、30歳代をピークに加齢とともに減少していきます。20歳～30歳代で骨量を確認することが骨粗しょう症予防につながることから、本市では20歳以上の女性を対象に骨粗しょう症検診を実施しています。

受診者数は、令和4年度（2022年度）では1,917人となっており、平成30年度（2018年度）の1,517人から400人増加しました。受診者全体のうちの60歳以上の割合は、平成31年度（2019年度）の70.1%をピークに減少し、令和4年度（2022年度）には56.7%となっており、若年層の受診者数が増えてきているといえます。

図2-1-37 骨粗しょう症検診受診率の推移(越谷市)



出典:越谷市健康づくり推進課

(オ) 歯周病検診

生涯自分の歯で食べることは低栄養を防止し、生活の質を高め、認知症予防になります。また、歯を失う原因のひとつとして歯周病があることから、本市では、平成30年度（2018年度）から35歳を受診対象に追加し、35歳から70歳まで5歳刻みの人を対象に歯周病検診を実施しています。

本市における受診者数は令和2年度（2020年度）に減少しましたが、それ以外では増加傾向にあり、要指導、要精検者も増加しています。

表2-1-6 歯周病検診受診者数の推移(越谷市)

年度	受診者数 (人)	異常なし (人)	要指導 (人)	要精検 (人)
平成30年度(2018年)	1,802	167	159	1,476
平成31/令和元年度(2019年)	1,847	172	153	1,522
令和2年度(2020年)	1,688	168	129	1,391
令和3年度(2021年)	1,839	180	179	1,480
令和4年度(2022年)	2,130	264	269	1,597

出典:越谷市健康づくり推進課

(カ) 口腔がん検診

口腔がんは舌や口腔粘膜に発生する悪性腫瘍で、加齢とともに発症率が高まるといわれており、進行すると命にかかわる疾病ですが、直接視診及び触診のできるがんであるため、早期発見が比較的容易です。

本市では、平成24年度（2012年度）から県内で初めて40歳以上の市民を対象に口腔がん検診を実施しており、令和4年度（2022年度）の受診者数は、初めて4,000人以上となりました。

表2-1-7 口腔がん検診受診者数の推移(越谷市)

年度	受診者数 (人)	要精密検査 (人)	発見がん(人) ※4月末現在
平成30年度(2018年)	3,350	58	1
平成31/令和元年度(2019年)	3,892	78	1
令和2年度(2020年)	3,289	44	1
令和3年度(2021年)	3,468	40	1
令和4年度(2022年)	4,058	41	0

出典:越谷市健康づくり推進課

(キ) 前立腺がん検診

前立腺がんは、早期では自覚症状がなく、進行がゆっくりとした疾病で、P S A 検査という血液検査により簡便に検診ができます。

本市では、平成24年度（2012年度）から、50歳から75歳までの5歳刻みの男性を対象として実施してきました。平成29年度（2017年度）からは、50歳から75歳までの節目の年齢以外の男性で初めて受ける人も対象とし、令和5年度（2023年度）からは、過去4年間に受診歴のない人に対象を拡大しています。

本市における受診者数は、令和4年度（2022年度）は1,629人です。令和2年度（2020年度）に1,000人を下回って以降受診者数が回復してきていますが、以前の水準には戻っていません。

表2-1-8 前立腺がん検診受診者数の推移(越谷市)

年度	受診者数 (人)	要精密検査 (人)	発見がん(人) ※4月末現在
平成30年度(2018年)	2,398	233	23
平成31/令和元年度(2019年)	2,406	222	26
令和2年度(2020年)	973	88	7
令和3年度(2021年)	1,193	108	7
令和4年度(2022年)	1,629	157	18

出典:越谷市健康づくり推進課